

2018年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2018年11月6日

上場会社名 トラスコ中山株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9830 URL <http://www.trusco.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山 哲也  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 経営管理本部長 (氏名) 中井 孝 (TEL) 03-3433-9833  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第3四半期の業績 (2018年1月1日~2018年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	156,784	9.6	9,760	△8.6	9,959	△8.5	6,725	△8.9
2017年12月期第3四半期	143,065	9.3	10,675	1.8	10,879	2.0	7,378	5.9
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2018年12月期第3四半期	101.99		—					
2017年12月期第3四半期	111.89		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第3四半期	168,111	117,812	70.1
2017年12月期	147,363	113,680	77.1

(参考) 自己資本 2018年12月期第3四半期 117,812百万円 2017年12月期 113,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	19.50	—	19.50	39.00
2018年12月期	—	18.50	—	—	—
2018年12月期(予想)	—	—	—	17.00	35.50

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年12月期の業績予想 (2018年1月1日~2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	213,000	9.2	13,600	△4.7	13,850	△5.0	9,300	△8.6	141.03

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2018年12月期3Q	66,008,744株	2017年12月期	66,008,744株
-------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2018年12月期3Q	63,982株	2017年12月期	63,568株
-------------	---------	-----------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2018年12月期3Q	65,945,119株	2017年12月期3Q	65,945,845株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記.....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

※当社は、四半期決算の補足説明資料を作成しており、決算短信発表後、速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ①当第3四半期累計期間の経営成績

	金額（百万円）	前年同四半期増減率（％）
売上高	156,784	9.6
営業利益	9,760	△8.6
経常利益	9,959	△8.5
四半期純利益	6,725	△8.9

当第3四半期累計期間（2018年1月1日～2018年9月30日）における日本経済は、7月に西日本を中心に記録的な大雨となった「平成30年7月豪雨」、9月に関西を中心に被害をもたらした「台風21号」や「北海道胆振東部地震」などの災害に伴い、自動車や生産用機械の製造に一部影響はあったものの、猛暑による関連商品が好調であったことや円安効果に伴い電気機械や自動車関連の輸出が改善したことなどにより総じて横ばいで推移しました。

国内の製造業を中心としたモノづくり現場においては、前述した災害の影響や半導体製造装置、産業用ロボットなどの生産に不服感がみられるものの、人手不足に伴う省力化やI o T化などを背景に企業の設備投資は継続的に実施されていることから、企業収益は安定して推移しました。

このような環境下で当社は、モノづくり現場で必要とされる少量多品種・高頻度の商品ニーズに的確にお応えするために、積極的な設備投資を継続しました。

2023年までに物流センターを中心としたエリアごとの在庫アイテム数を50万アイテムまで拡充する目標に向けて、取扱いアイテムの拡大及び在庫拡充を戦略的に強化することで、お客様の利便性向上に努めました。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,567億84百万円（前年同四半期比9.6%増）となりました。

売上総利益率が前年同四半期の21.3%から21.2%となり、売上総利益は332億75百万円（前年同四半期比9.1%増）となりました。

販売費及び一般管理費は、売上の拡大に伴う出荷量の増加や送料の値上げの影響による運賃及び荷造費の増加、正社員及びパートタイマーの増員による給料及び賞与の増加、プラネット埼玉の新設に伴う減価償却費と消耗品費の増加などにより、その合計額は235億14百万円（前年同四半期比18.6%増）となりました。

以上の結果により、営業利益は97億60百万円（前年同四半期比8.6%減）、経常利益は99億59百万円（前年同四半期比8.5%減）となり、四半期純利益は67億25百万円（前年同四半期比8.9%減）となりました。

## ②ルート別売上高の状況

第1四半期会計期間より、セグメントの業績をより適切に評価するために、一部の費用の配分方法を変更しています。それに伴い、前年実績の利益又は損失は変更後の測定方法により作成し、比較しています。

	当第3四半期累計期間 自 2018年1月1日 至 2018年9月30日		前年同四半期増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファクトリールート	124,080	79.1	7.1
e ビジネスルート	22,316	14.2	26.6
ホームセンタールート	9,687	6.2	9.1
その他	700	0.5	5.2
合計	156,784	100.0	9.6

## 1) ファクトリールート(製造業、建設関連業等向け卸売)

ファクトリールートにおいては、物流センターの在庫拡充を継続するとともに、全国に31か所ある在庫保有支店の在庫アイテム数を3万アイテムに拡充する目標に向けて、市場のニーズに即した在庫拡充を進めることで得意先の利便性向上に努めました。また、引き続き得意先向け物流センター見学会の実施やブランド力のあるメーカーの商品PRを中心に営業活動を強化しました。

その結果、売上高は1,240億80百万円(前年同四半期比7.1%増)となりましたが、費用の増加に伴い経常利益は79億41百万円(前年同四半期比10.4%減)となりました。

## 2) e ビジネスルート(ネット通販企業等向け販売)

e ビジネスルートにおいては、約173万アイテムに及ぶ商品データベースと得意先のシステムの連携を加速させ、得意先ごとの出荷梱包形態に合わせた独自の物流サービスを強化しました。また、一部のユーザーに対しては得意先を通じて受けた注文を直接納品することで納期の短縮につなげました。継続してユーザーへの訪問頻度を増やし、ユーザー向け物流センター見学会の実施や電子購買セミナーを開催することで、専門性の高い営業活動を行いました。

その結果、売上高は223億16百万円(前年同四半期比26.6%増)、経常利益は20億62百万円(前年同四半期比12.6%増)となりました。

## 3) ホームセンタールート(ホームセンター、プロショップ等向け販売)

ホームセンタールートにおいては、建築現場などのユーザーをターゲットとしたプロショップを中心に、売場の改善提案やストア・ブランド商品の開発を強化することで、需要の喚起に努めました。また、得意先の新規出店に伴う需要の拡大に対しても、的確に対応することで売上高の増加につなげました。

その結果、売上高は96億87百万円(前年同四半期比9.1%増)となりましたが、費用の増加に伴い経常損失は1億46百万円(前年同四半期は24百万円の経常利益)となりました。

## 4) その他

当社は、子会社のトラスコナカヤマ タイランド及びトラスコナカヤマ インドネシアへの販売を含む海外部の販売を「その他」に含めています。

売上高は7億円(前年同四半期比5.2%増)、経常損失は57百万円(前年同四半期は13百万円の経常損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

資産合計は、前事業年度末に比べ207億48百万円増加の1,681億11百万円（前事業年度末比14.1%増）となりました。その主な要因は、現金及び預金47億51百万円の増加、商品52億48百万円の増加、プラネット埼玉の完成などによる建物134億59百万円の増加、プラネット埼玉の自動倉庫などマテハン設備の設置による機械及び装置21億93百万円の増加、ECサイトのリプレイスにかかるシステムの稼働などによるソフトウェア22億98百万円の増加、売掛金10億84百万円の減少、プラネット埼玉の完成などによる建設仮勘定98億30百万円の減少によるものです。

### (負債)

負債合計は、前事業年度末に比べ166億16百万円増加の502億99百万円（前事業年度末比49.3%増）となりました。その主な要因は、未払金11億20百万円の増加、設備投資を加速させることを目的とした長期借入金150億円の増加、買掛金2億52百万円の減少、未払法人税等5億30百万円の減少によるものです。

### (純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ41億31百万円増加の1,178億12百万円（前事業年度末比3.6%増）となりました。その主な要因は、繰越利益剰余金が四半期純利益67億25百万円の計上により増加し、前事業年度の期末配当金12億85百万円及び当事業年度の中間配当金12億19百万円の支払により減少したことによるものです。自己資本比率は前事業年度末の77.1%から70.1%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2018年8月3日発表の数値に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,412	15,164
売掛金	24,673	23,589
電子記録債権	1,340	1,686
商品	31,841	37,090
繰延税金資産	661	1,121
その他	855	2,453
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	69,785	81,106
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	23,440	36,900
機械及び装置（純額）	1,364	3,558
工具、器具及び備品（純額）	873	1,593
土地	28,412	28,412
建設仮勘定	12,912	3,082
その他（純額）	838	1,820
有形固定資産合計	67,842	75,367
無形固定資産		
ソフトウェア	2,352	4,651
その他	996	627
無形固定資産合計	3,349	5,278
投資その他の資産		
投資有価証券	1,559	1,434
関係会社株式	4,129	4,129
繰延税金資産	145	192
再評価に係る繰延税金資産	157	157
その他	401	452
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	6,385	6,359
固定資産合計	77,578	87,005
資産合計	147,363	168,111

(単位：百万円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2018年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	14,596	14,343
未払金	3,495	4,616
未払費用	147	207
未払法人税等	2,233	1,703
賞与引当金	399	1,269
役員賞与引当金	—	93
その他	558	840
流動負債合計	21,430	23,075
固定負債		
長期借入金	10,000	25,000
役員退職慰労引当金	152	151
長期預り保証金	2,099	2,072
固定負債合計	12,252	27,223
負債合計	33,683	50,299
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,022	5,022
資本剰余金	4,710	4,711
利益剰余金	103,686	107,906
自己株式	△71	△72
株主資本合計	113,348	117,567
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	689	602
土地再評価差額金	△357	△357
評価・換算差額等合計	332	245
純資産合計	113,680	117,812
負債純資産合計	147,363	168,111



## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2017年1月1日 至2017年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)
売上高	143,065	156,784
売上原価	112,566	123,508
売上総利益	30,498	33,275
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	3,422	4,086
役員報酬	183	186
給料及び賞与	7,605	8,249
賞与引当金繰入額	911	1,269
福利厚生費	1,461	1,676
通信費	227	256
減価償却費	2,022	2,493
借地借家料	345	484
その他	3,642	4,813
販売費及び一般管理費	19,823	23,514
営業利益	10,675	9,760
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	15	17
仕入割引	1,221	1,380
その他	310	269
営業外収益合計	1,548	1,669
営業外費用		
支払利息	5	29
売上割引	1,241	1,352
その他	97	90
営業外費用合計	1,343	1,471
経常利益	10,879	9,959
特別損失		
固定資産除却損	27	27
特別損失合計	27	27
税引前四半期純利益	10,851	9,931
法人税、住民税及び事業税	3,667	3,674
法人税等調整額	△194	△469
法人税等合計	3,472	3,205
四半期純利益	7,378	6,725

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

## ①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)3	四半期 損益計算書 計上額 (注)4
	ファクトリー ルート	e ビジネス ルート	ホームセンター ルート	計				
売上高								
外部顧客への売上高	115,901	17,620	8,877	142,399	666	143,065	—	143,065
セグメント利益又は 損失(△)(注)2	8,860	1,830	24	10,715	△13	10,702	177	10,879

(注)1 「その他」のセグメントには、報告セグメントに含まれない海外販売等の事業セグメントを含んでいます。

2 「セグメント利益又は損失(△)」は、経常利益を表示しています。

3 「セグメント利益又は損失(△)」の調整額1億77百万円は、各報告セグメントに帰属しない利益が含まれています。

4 「セグメント利益又は損失(△)」は、四半期損益計算書の経常利益と調整を行っています。

当第3四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

## ①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)3	四半期 損益計算書 計上額 (注)4
	ファクトリー ルート	e ビジネス ルート	ホームセンター ルート	計				
売上高								
外部顧客への売上高	124,080	22,316	9,687	156,083	700	156,784	—	156,784
セグメント利益又は 損失(△)(注)2	7,941	2,062	△146	9,857	△57	9,799	159	9,959

(注)1 「その他」のセグメントには、報告セグメントに含まれない海外販売等の事業セグメントを含んでいます。

2 「セグメント利益又は損失(△)」は、経常利益を表示しています。

3 「セグメント利益又は損失(△)」の調整額1億59百万円は、各報告セグメントに帰属しない利益が含まれています。

4 「セグメント利益又は損失(△)」は、四半期損益計算書の経常利益と調整を行っています。

## ②報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、セグメントの業績をより適切に評価するために、一部の費用の配分方法を変更しています。

なお、前第3四半期累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の「セグメント利益又は損失(△)」は、変更後の測定方法により作成しています。